

# 第70期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日

**サトー 佐藤食品工業株式会社**

証券コード：2814

## 株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
ここに、当社第70期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

2024年6月

代表取締役社長 **上田 正博**

## 業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

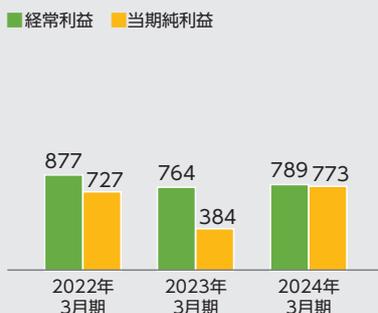
佐藤食品 IR

検索

### 売上高／営業利益（単位：百万円）

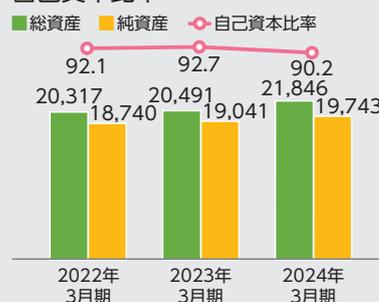


### 経常利益／当期純利益（単位：百万円）



### 総資産／純資産（単位：百万円）

#### 自己資本比率（単位：%）



## 役員一覧（2024年6月25日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役	稲垣 篤
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二
監査役（社外）	関谷 保仁

## 株式の状況（2024年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	4,065,828株 (自己株式5,101,632株を除く)
株主数	1,062名

## 株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された100株以上の株式を保有される株主様
優待内容	100株～499株 500円相当の当社製品（茶エキス粉末）
	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキス粉末）
	1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキス粉末）
発送時期	毎年6月を予定しております

## 会社概要（2024年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	164名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

## 佐藤食品の茶エキス粉末

当社の茶エキス粉末は、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。



## 単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。



# Sアトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

## 製品分野のご紹介



### 茶エキス ● 売上高：2,806百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



### 天然調味料 ● 売上高：2,426百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



### 植物エキス ● 売上高：754百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



### 粉末酒 ● 売上高：107百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

## 当期の概況

当事業年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」といいます）の位置づけが5類へ移行したことで、行動制限が緩和され人流が回復した結果、個人消費に緩やかな持ち直しの動きが見られました。また、本感染症感染拡大防止のための水際対策撤廃や、円安の影響により、訪日外国人旅行者数が感染拡大前の水準で推移するなど、インバウンド需要にも持ち直しの動きが見られました。一方で、物価上昇による消費マインドの低下が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。海外経済につきましては、欧米を中心とした金融引き締めや中国経済の先行き懸念による景気の下振れリスク、地政学リスクの高まりなど、予断を許さない状況が続いております。

当食品業界につきましては、エネルギーコスト及び原材料コストの高止まりや物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりなどから、厳しい事業環境に直面しました。また、人流の回復に伴い飲料需要が回復したものの、本感染症禍において増大した内食需要が縮小するなど、不安定な状況が続いております。

当社といたしましては、変化、多様化する消費者ニーズや顧客ニーズを的確に把握し、それらのニーズに合致した高付加価値製品の開発を実現すべく、新製品・新技術開発に挑戦していくとともに、原材料コストの動向を注視しつつ、安全・安心な原材料の安定調達に取り組んでまいりました。

このような状況のもと、当社の当事業年度における売上実績は、茶エキスを中心に緩やかな回復基調で推移しました。

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、飲料需要やオフィス需要の回復により、緑茶エキス・紅茶エキス・麦茶エキス等が増加したため、売上高は2,806百万円（対前年同期比11.8%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末ソース等が増加したものの、本感染症禍において増大した内食需要の減少により、粉末鰹節・粉末魚介等が減少したため、売上高は1,740百万円（同4.5%減）となりました。

植物エキスにつきましては、外出機会の増加を受け土産などの製菓用途需要が堅調に推移し、果実エキス等が増加したため、売上高は754百万円（同6.1%増）となりました。

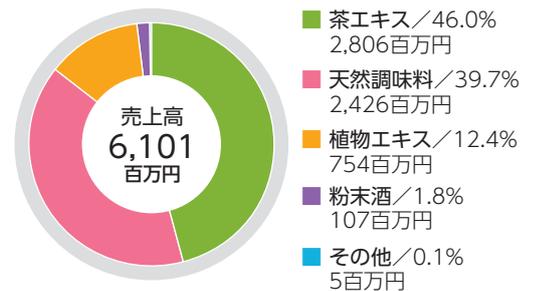
液体天然調味料につきましては、外食需要は回復傾向にあるものの、家庭内調理需要の減少により、昆布エキス・椎茸エキス等が減少したため、売上高は686百万円（同2.6%減）となりました。

粉末酒につきましては、インバウンド需要は回復傾向にあるものの、製菓用途需要の減少により、ラムタイプ・ブランデータイプ等が減少したため、売上高は107百万円（同14.8%減）となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高は6,101百万円（同3.7%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の増加により営業利益は663百万円（同7.4%増）、経常利益は789百万円（同3.2%増）となりました。また、投資有価証券売却益155百万円を計上したため、当期純利益は773百万円（同101.0%増）となりました。

## 売上高構成比



## 中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

### ① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

### ② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

### ③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。